

27年度福祉サービス第三者評価 利用者（園児）本人調査結果報告書

千丸台保育園

(株)R-CORPORATION

*調査日程	観察調査	2015年10月29日・30日
	本人調査	2015年10月30日
*保育観察	調査員3名で全クラスの視察、観察を行いました。生活の保育観察を行い、午睡の様子と保育観察を継続する中、1日目の異年齢（3歳から5歳児）合同のリズム活動を観察し、食事（1日目）を園児と一緒にいき、園児と保育士の様子の観察を行い、延長保育の観察も1日目に行いました。2日目は0歳児のお散歩に参加し、帰園後、ちょうど調査当日はハロウィン活動を行っており、見学を行い、子どもが制作した「かぼちゃのクッキー」の成果の作品を賞味しました。	
*利用者本人調査の方法	4歳児、5歳児対象に園から選ばれた4歳児5名、5歳児5名を2回に分けて各30分、質問6項目のインタビューを実施し、一人一人の意見を聞き、集計・分析し、子どもの姿を通し園生活、保育士との関わり等を確認しました。また、大きく項目を分け、遊び中心とした保育園での生活、食育を通した子どもの成長と家庭との連携、そして保育士を中心とした社会生活の面について考察しました。	
*属性	4歳児：男児3名・女児2名 / 5歳児：男児2名・女児3名	

利用者（園児）本人調査結果

1. 【保育園での生活】

千丸台保育園の周囲は団地、浄水場があり、敷地の周辺は広々としており、四季折々の草木に恵まれ、立派な桜並木、イチョウ並木が季節を感じさせてくれ、豊かな環境に恵まれた保育園です。広い園庭では子どもたちが元気に遊び、異年齢での交流で互いに思いやりを育み、保育士の見守りでのびのびと生活を楽しんでいます。園児のインタビューでは、「好きな遊びは？」と聞いてみると、4歳児では、「ブロック」、「お絵かき」、「カルタ」、「怪獣ごっこ」などが挙がり、5歳児では、「お絵かき」、「カルタ」、「指人形」、「ままごと」などを答えてくれましたが、園では外部講師による体操実技を実施しており、本人調査を行った時間は、4、5歳児が体操の後に面接を行ったこともあり、室内遊びをしたかったのでしょうか。4歳、5歳共に静かな遊びが挙がりました。カルタ遊びでは、保育室にカルタのカードを貼り出して活用している取り組みを行っている経緯から、子どもたちも良くカルタで遊んでいる様子が見られ、カルタの使い込みの状況からも親しんでいる

様子うかがえしました。玩具は各クラスに設置されている他に、ホールにも準備されており、延長保育などで子どもが自由に遊べるよう、行き届いた管理がなされており、子どもたちは好きな玩具を取り出し、写真やひらがなで示された場所に使った玩具をしまうなど、ルールを守って遊んでいます。また、子ども同士の会話から、保育士が言葉がけをしながら遊びの発想を広げ、共に楽しみながら遊ぶ様子が観察できました。

## 2. 【食育に関する保育】

食育については、園庭で米袋を活用してさつまいもの栽培を行い、地域で畑を借りて栽培および収穫を体験し、採れた野菜は給食で調理してもらい、子どもたちは好き嫌いなく楽しく給食の時間を共有しています。給食の量は、子ども自身の申告で盛り付け、アレルギーの子どももお代わりができるよう、その児専用のお代わり分も準備されており、子どもたちと保育士は楽しく会話を交えながら、完食を味わい、保育士に褒めてもらい、楽しい食事の様子が観察できました。食事についてのインタビューでは、4歳児は、「から揚げ」、「人参が好き」、デザートでは「マスカット」、「苺」、「バナナ」が好き、とうれしそうな顔で答えてくれました。5歳児の好きな食事では、「オムライス」、「ハンバーグ」、「カレー」で、デザートでは「ショートケーキが好き」という回答であり、体も大きくなりしっかりした食事が好きなようです。しかし、「ピーマン」、「茄子」、「ゴーヤ」は苦手という意見もありましたが、みんなは給食が楽しみの様子です。

## 3. 【先生を中心とした社会生活】

社会生活では、お散歩で保育士が子どもたちの見本となるよう挨拶を行い、子どもたちも近所の方に元気に挨拶をしています。調査日1日目では0歳児のお散歩に同行しましたが、道で行き交う人、高齢者の方々は子どもたちを見て笑顔で声をかけてくれます。ベンチで休んでいるお年寄りも相手を崩して手を振ってくれるなど、子どもたちは地域の方に見守られ、さまざまな方と触れ合っています。保育士とのコミュニケーションでは、「トイレに行くときは先生には言うてから行く」、ケガなどでは、転んだり、ぶついたりなどのケガの時も保育士に言い、処置をしてもらい、絆創膏を貼ってもらっているようです。保育士については、「やさしい」、「怖くない」、「友だちにいじわるすると怒られる」など、保育士と過ごす生活の様子を聞かせてくれました。子どもたちは、やさしくしてくれる保育士が好きなようです。保育士も子どもたちの気持ちを受け止め、一人一人を尊重して保育にあたっていることが確認できました。園長先生とは、ほとんどの子どもたちが、「園長先生とは話したことがある」、「お話をしてくれる」、「いつも部屋に来てくれる」、「好き」と答え、園長先生を身近に感じ、園長先生の姿が見えるとうれしい様子です。子どもたちは、保育士という大人を通じて社会の大人、他人に対するルール、人・ものに対する「思いやり」を学び、保育士に守られ、友だちや小さな子どもたちと交流をしながら、健全に育まれていることがわかりました。